

臨床研究情報

【研究課題名】

非 I g E 依存性消化管食物アレルギーの症例集積研究

【研究機関】

大阪赤十字病院

【研究責任者】

当院責任者 大阪赤十字病院 副院長 住本真一

【研究の目的】

一般的な食物アレルギーは、アレルゲンを食べた後に、じんましんや皮膚の赤みなどの皮膚に症状が出るのが最も多く、それ以外にせきや鼻水などの呼吸器症状、下痢や嘔吐などの消化器症状、意識障害などの神経症状、血圧低下などの循環器症状などが出ることもあり、これらの症状が合わせて出ると出る状態のことをアナフィラキシーと言います。

一方、牛乳（人工乳）では、特に乳幼児期にミルクを摂取した後に、血の混じった便が出たり、嘔吐したり消化器症状のみが出るアレルギーが存在し、「消化管アレルギー」と呼ばれています。さらに、牛乳以外にも穀類やうずら卵、魚介類などで同様の症状が出ることもあるとの報告はありますが、詳しいことはわかっていません。

特定の食品を摂取後に、消化器症状のみを呈する食物アレルギーの実態を把握して、より良い食物アレルギーの診療方法を確立することを目的としています。

【研究の方法】

- ・対象となる患者さん

2014年4月1日から2019年3月31日までの期間に大阪赤十字病院で、非 I g E 依存性消化管食物アレルギーと診断された患者様

- ・研究期間：医療倫理審査委員会承認後から5年間
- ・利用する情報

性別、発症した年齢、調査時の年齢、同胞の有無、乳幼児期の栄養方法、抗菌薬の使用歴、受動喫煙、アレルギー歴、アレルゲン、誘発症状の詳細、現在のアレルゲン摂取状況、臨床検査データ、食物経口負荷試験の結果とその経過と誘発症状に対して行われた治療

- ・外部への試料・情報の提供方法

情報は、近畿大学医学部附属病院 小児科に提出され、集計、解析が行われます。

【個人情報の取り扱い】

研究に利用する情報には個人情報が含まれますが、院外に提出する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できる情報は削除し、研究用の番号を付けます。また、研究用の番号とあなたの名前を結びつける対応表を当院の研究責任者が作成し、情報提供の拒否の申し出があった場合や、診療情報との照合の目的に使用します。対応表は、研究責任者が責任をもって適切に管理し、院外へ持ち出すことはありません。

情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。

【問い合わせ先】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

大阪赤十字病院 小児科部 安西 香織
〒543-8555 大阪市天王寺区筆ヶ崎町 5-30
TEL 06-6774-5111 FAX 06-6774-5131